

ミズホ式流水施肥

＜特徴・効果＞

稲作の追肥作業は重労働である。特に近年の基盤整備に伴う圃場の大型化は、夏場の追肥には体力を相当要する。Mリン農法の稲作では、水の力を利用して比較的に楽に追肥ができる流水施肥を薦めている。水が自由に使えない天水田などを別にすれば、大方の田でミズホ式流水施肥は可能である。

＜流水施肥の条件＞

- ① 畔の高さが 10 c m 以上確保されていること
- ② 畔からの漏水がないこと
- ③ 田 1 枚分の水が確保できる水量があること
- ④ 田面の高低差が約 3 c m 以内であること

＜流水施肥に利用できる肥料＞

MリンPK (スーパーMリンPK)
硫酸マグネシウム
硫安
尿素
アミノ酸肥料およびアミノ酸液肥

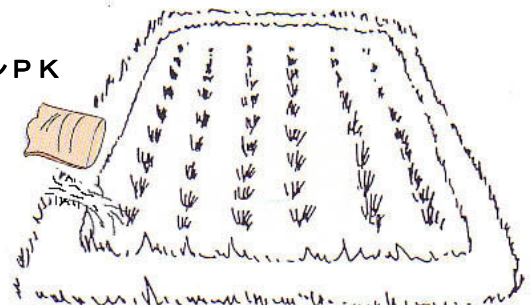
※利用できない肥料

遅効性の肥料 (CDU, IB, LP など)
ク溶性の肥料 (溶りん、重焼りん、ケイカルなど)
未発酵の有機肥料 (米ぬか、油粕、鶏糞など)

＜作業方法＞

- ① 田んぼの水位を 1～2 c m にする
- ② 水を入れながら、MリンPKを水口に投入する。
- ③ 次に硫安などのチッソ肥料を投入する
- ④ 投入が終わっても、水は入れ続ける
- ⑤ 田んぼが満水 (10～15 c m) になったら、水を止める

MリンPK



＜流水施肥Q & A＞

◆肥料は全体に広がりますか？

MリンPKに含まれるリン酸成分は、大方きれいに広がります。チッソ分については、水の入れ方で偏りが発生することもあります。田全体に「ムラムラ」を発生させる可能性は極めて小さいといえます。

◆大きな田でもできますか？

できます。1～2 ha でも実施されています。大面積の水田での機械を利用した追肥は大きな労力がかかる作業となるので、むしろ実施されている割合は、小・中面積の田よりも多いようです。1 ha 以上の大きな田では、投入回数を 30～90 分おきに 2～3 回に分けて行います。